

table

〈建築家と建築から街を活気づけるマガジン〉

スケッチ博覧会！

〔吉田文男・光嶋裕介・中村文紀・横内敏人〕



特集

遊びと

建築家

対談・建築家ことこの遊び

〔岩田章吾×木村吉成〕



ただいま、本気のサッカー中。

vol. 3



建築家と建築家〔稲地一晃×菅原英房〕

建築家の余暇時間

〔萬野光雄×蕎麦打ち・橋本頼幸×クラリネット演奏〕



- 02 ただいま、本気でサッカー中。
(仮称)京都 × レアル・間取り・どう?
- 05 建築家の余暇時間
萬野光雄 × 蕎麦打ち
橋本頼幸 × クラリネット演奏
- 06 スケッチ博覧会!
吉田文男・光嶋裕介・中村文紀・横内敏人
- 10 対談・建築家にとっての遊び
岩田章吾 × 木村吉成
- 13 建築家と建築家 03
稲地一晃 × 菅原英房
- 14 あの人のオススメ
金山大 水鯨(大阪・川口)
後藤直子 ワタシノ(京都・二条)
- 17 JIA TOPICS
JIA近畿支部事務局を学生委員会で改修しました

table

私たちは「建築家」と呼ばれる仕事をしていますが、まだまだ世間ではイマイチ分かりづらい仕事でもあります。今回は、そんな建築家の「遊び」の面に少しフォーカスしてみました。私たちの日々のB面も覗いていただき、身近に感じていただければ幸いです。そして、この「table」を囲んで、街や社会がさらに彩られていくことを願っています。

JIA近畿支部 広報委員 金山大



建築家 と 遊び

特集



建築家たちが集まってサッカーをやっているというので、大阪の「ウルトラスタジアム舞洲」へ。この日は、魚谷繁礼さん率いる「(仮称)京都」と、宮本佳明さん率いる「リアル・間取り・どう?」の対戦。各チームには事務所の若手スタッフ、建築学生も加わって、年齢層が幅広いのも特徴的だ。そもそも建築界では、2001年から続く「A☆CUP」なるサッカー大会が開催され、年に1度の試合日程が決まれば、日頃は忙しい建築家たちも大会日だけは死守。海外に拠点を移した建築家も帰国するのだとか。



ただいま、

本気でサッカー中。



サッカーと建築は、いずれも俯瞰で空間を見る能力が求められたり、チームビルディングが大切だったり、個性を出しつつチームの輪からはみ出ないギリギリを動く感覚だったり…なんて共通項があるって話も聞けたけど、とにかくゲームが始まれば上下関係も肩書きもなく、ただひたすらボールを追いかけるのみ。このフラットな時間が過ごせるのが何よりもよいところなのかも。



サッカーは、



宮本佳明建築設計事務所
宮本佳明さん

魚谷繁礼建築研究所
魚谷繁礼さん

小中高とサッカー経験あり。自身のチーム「(仮称)京都」は現在、20~30人ほどが在籍。「主なポジションはサイドハーフ。走ってればいから楽なんです。走るの好きだし、サッカーって点が決まった瞬間にウワッ!とアガって、汗かいた男同士でも抱き合って喜んで(笑)。建築の現場にはない高揚感があるのでリフレッシュになる。この先の目標は、A☆CUP優勝と60歳になっても前後半フル出場。途中交代せずに走り切りたいですね。」

女性中心のサッカーチーム「SPIKE GIRLZ(スパイクガールズ)」を主宰。メンバーは30~40人。「女性のサッカー経験者が少しずつ増えてきましたよ。」

宮本佳明建築設計事務所
有田泰子さん



Schenck Hattori
服部大祐さん

小学校から社会人までサッカーとの関わりは途切れることなく。「おかげでもう足首が限界で、潮時かなと。そろそろ真面目に建築をやります(笑)」。



「A☆CUP」をきっかけにサッカーを始めて20年。「20年前、A☆CUPの1週間前に急に誘われて、中学校以来、ボールを蹴ったことのないのに気づけば参加して自分でチームまでつくって。何度か優勝もした強豪チームでしたが、最近は優勝も遠のいてすっかり古豪に…。チーム作りの秘訣?スカウティングです。どれだけ若手を引っ張ってこれるか。こっちはもう20年選手、彼らが生まれる前からやっているベテランだけど(笑)、いつまでも初心者です。」

UME architects
梅原 悟さん



小中高とサッカー経験あり。誘われて「リアル・間取り・どう?」に加入。「小学校ではハーフを、中学からは昔で言うストッパーのポジションでしたが、今はもう若者たちが動くジャマにならないように、とてつもなく運動不足なので(笑)。サッカーとA☆CUPを通して全国の建築家と話ができるのは、やっぱりとてもおもしろい体験だと思っています。」

好きですか?

川上聡建築設計事務所
川上 聡さん

メキシコの建築事務所で12年在籍。現在は京都へ。「メキシコでも同じように事務所単位でサッカーをやりました。向こうの方はやっぱり球ぎわがすごく上手で。」



萬野光雄さんの

蕎麦打ち



萬野光雄建築設計事務所
https://manno-architect.com

「はじめたキッカケ」 島根県で博物館の設計をしていた時に、町長さん宅で手打ち蕎麦をいただき、この町ではどの家庭にも蕎麦打ち道具があると言われたこと。町長さんの冗談だったのですが、「萬野さんも建築家なら引っ越し蕎麦で建築の完成を祝ったら」と言われたことを真に受けました。

「蕎麦打ち史」 人前で初めて打ったのは、1999年、島根県太田市の住宅のお披露目会です。その後は大学の学園祭、JIAの全国大会京都、行政との懇親会などでも。

「本番までの練習」 イベントでは1日にそば粉4~5キロを打って、50~60人前ぐらいになるので、それ自体がいい練習にもなります。イカ墨を練り込んだ黒蕎麦、抹茶蕎麦を試したこともありますし、出汁についても試行錯誤しています。

「蕎麦打ちの効用」 おいしいものを食べている人の顔を見て、自分も喜んでます。最近、出前で手打ちそばを頼まれたりしますが、設計の仕事につながったことはありません。残念!

「建築に通じることがあるとすれば」 以前は竣工写真を撮って建築の完成としてきましたが、今ではお祝いに蕎麦を振る舞って完成としています。私にとっては神事のようなものです。

「今後の目標」 松江の「神代そば」、名古屋の「沙羅餐」。格別の蕎麦屋さんである、この店の味に近づきたいですね。

建築家の余暇時間

趣味の域を超えて!

それぞれ長く続く余暇の活動について、6つの共通質問を投げかけました。

「はじめたキッカケ」 中学の吹奏楽部をきっかけに、大学オーケストラでも4年間活動。その後、1997年から室内楽の演奏会を始めて、現在まで年1回の演奏会を継続して、今年で27回となりました。無料で行うこと、素人だからを言い訳にしない音楽作りにこだわっています。

「演奏会歴」 フェッセルン・アンサンブルという団体名で活動。そのHP (https://pap-pro.com/) に過去のプログラムと演奏動画を掲載しています。また2016年には、JIA全国大会大阪のオープニングで演奏しました。

「本番までの練習」 18年前、事務所に防音のレッスン室をつくりました。個人練習は、平日は朝のスタッフが来るまでの時間や夜21時以降が中心です。

「クラリネットの効用」 建築の仕事は、食事中でも風呂に入っている時も頭から離れません。

唯一、頭から仕事のことを切り離せるのが音楽をやっているときです。

「建築に通じることがあるとすれば」 意外とお客さんにもクラシックに興味を持って、演奏会に来てくれる人が多くいます。音楽が依頼者との距離を近づけてくれます。また、建築設計は音楽の特に作曲と脳の同じ部分を使っていると思うことがあります。

「今後の目標」 年1回の演奏会を粛々と続けること。自分の気力と命が続くかぎり続けたいと思っています。



こま設計堂
http://www.pap-pro.com/koma/

橋本頼幸さんの

クラリネット演奏



スケッチ博覧会!

設計のため、あるいは楽しみとして。そのスケッチはどのように描かれたのか。

4人のスケッチブックを拝見しました。



Koshima Yusuke

光嶋裕介建築設計事務所を主宰。
神戸大学にて特命准教授を務める。
作品集「幻想都市風景」をはじめ、
著作物も多数刊行。
www.ykas.jp

学生時代、主に海外の建築を実地に見てはその場でスケッチしていた光嶋さん。大判のスケッチブックを手に、その場に何時間も留まって描いたという。「対象を模写しながらその設計者と架空の対話をしている感覚で。どんどん精密に描けるようにもなりましたが、もう今ではこの熱量では描けないって」。世界各地の建築をスケッチしてまわり、1冊終えるのに約7年。そこで思い切りよくやり方を変えて、小さなモレスキンに30分ほどで描く「スピードスケッチ」へと切り替えた。「途中から色も乗せるようになりましたけど、その場で仕上げること、その空間で感じたものを描くこと、これは変わっていません」。スケッチは光嶋さんにとってその建築と対峙する手段。どう認識したか、何を感じたかをペンを通じて「自分をチューニングしている感覚」でもあるという。さらにもうひとつ、光嶋さんは「幻想都市風景」なるドローイングも制作。こちらは個展を開いて作品集を出すまでに。「スケッチと違って、内的なものを表出しています。建築がどうあるべきかという自分の感覚を絵にしている感じかな」。

大判のスケッチブックは学部～大学院時代に描いていたもの。手前のスピードスケッチは今も継続。

Koshima Yusuke
光嶋裕介さん
Sketch Expo!



Yoshida Fumio
吉田文男さん
Sketch Expo!

建物は電線まで省かず、町並みごと描くことが多い。最近「水の流れ」を描くのがマイブーム。

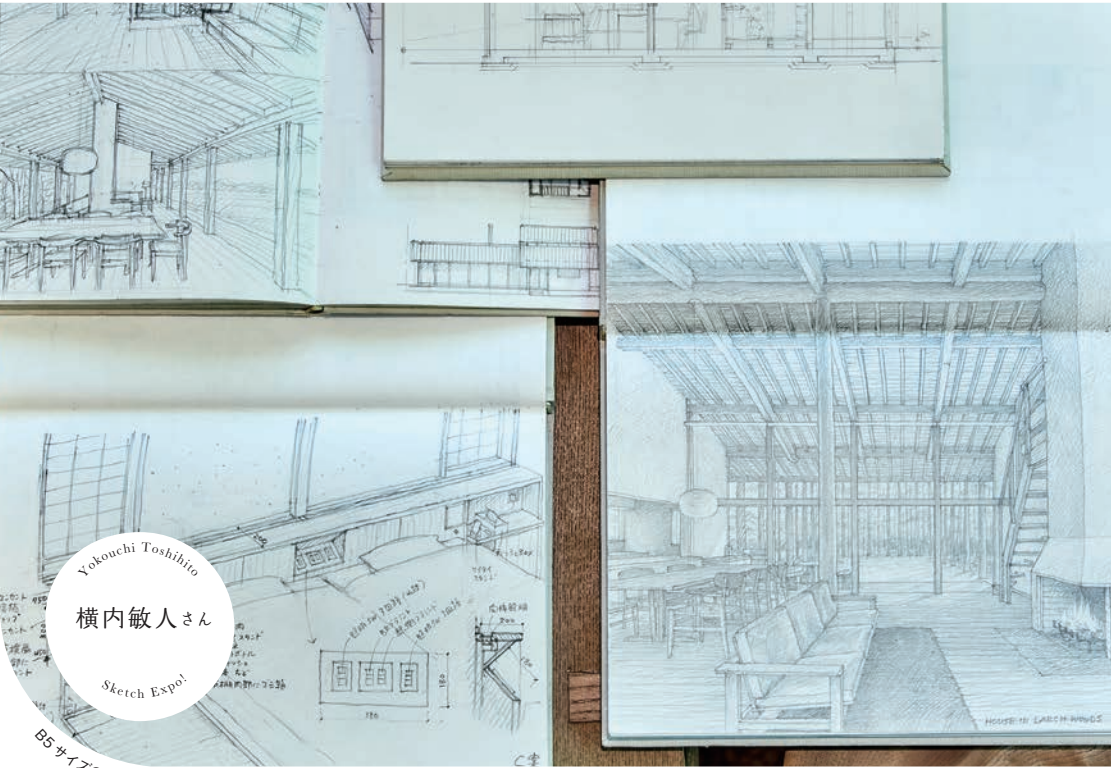
Yoshida Fumio



一級建築士事務所アトリエフォルム主宰。
姫路と高砂を拠点に活動。
http://www.at-form.com/

かけた先で目にした建物や町並み、食べたものなど、対象を絞らずにスケッチしている吉田さん。かつては現場で描いていたが、今では仕事を終えた後、深夜23～2時頃に描くことが多いのだそう。「結果的にはオンオフの切り替えですね。帰ってそのまま寝るのはもったいないので。だから画風もいろいろで定まらず。丁寧に描きこんでのもあれば、ささっと描いたものもあります」。ポストカード用紙に描いているのは、「勝負が早いから」。1枚ごとに完結した用紙を使ったほうが描きなやという強迫観念がなくていいのだそう。「硬さ、柔らかさといった質感をどう表現できるかはいつも考えていて、そこは設計にも通じることかもしれません」。

そんな吉田さんがこの数年で夢中になっているのが、食品サンプル。動画を参考にしながら独自に作りはじめて、寿司、おでんなどが爪の先ほどの大きさで忠実に、無数に作られていた。「所員からもうついでいけなと言われてます(笑)。けど、頼まれて地域のご老人に作りかたを教えたりもしましたよ」。



Yokouchi Toshihiko
横内敏人さん

Sketch Expo!

B5サイズのスケッチブックがもう75冊目。消しゴム付きのトンボ鉛筆 HB を愛用。

ース図や平面図断面図だけでなく、手描きのスケッチもまた、横内さんの設計には欠かせないもの。「だいたいの間取りができた時点で、先にスケッチを描くこともあります。構造や設備、家具などをどうしようって考えながら描いて、それからプランに戻って、やっぱりおかしいとなればまたスケッチを描き直して」。消したり書いたり手間のようにでいて、思いついたことをすぐ絵にできるという点では、CADなどのツールよりもよほど早いのだという。「CADだと部屋から見える外の景色は描けないし、家具などの曲線もうまく描けないですよ。それぞれ長所短所あるけど、とにかく、さっと手が動くというのは建築するにあたって大事な能力のひとつ。だから、うちの所員にもまずはCADを使わず手で描かせます。学校でも教わらないから下手くそなんだけど、その下手さを自覚しないとダメ。CADだとできた気分になって、それっぽい図面になるんですよ。それは大間違いだって認識させるためにもね」。



Yokouchi Toshihiko

アトリエは京都・若王子神社のそばに。
スケッチ集『NOTES 横内敏人の住宅設計ノート』も刊行。
<https://www.yokouchi-t.com/>

料理を前にしてささっと描く食スケッチが日課という中村さん。これ、ある出来事がキッカケに始めたそう。「ゴルフ場で一緒になった初対面の方が85歳にしてすごくお元気で、聞けば49歳の誕生日に煙草をやめたっていうんです。ちょうどその3日後が私の49歳の誕生日だと言うと、「じゃあ、あなたもやめなさい!」って」
その言葉を受けて誕生日から禁煙。手持ち無沙汰を慰めるようにして、食スケッチが始まった。「後日、色を塗れるのも二度楽しくて。おいしくなかったら塗らないこともありますけど」とにっこり。
好きな鰹やてっさはその年に食べるたびに通し番号を入れたり、最高においしければ太陽マーク、ダメなら描いた絵の上からバツ印をつけることも。誰に公開するものでもないからこそマイルールだ。「人に見せると思えば、自分のいやらしい感じが出てしまいそうで(笑)」。最終ページには殿堂入りの店リストと、知人友人に推薦された店名もずらり。新しいモレスキンをおろすたびにそのリストも更新して、すでに30冊を超えた。



Nakamura Fuminori

東畑建築事務所シニアフェロー。
建築家ではなくあくまでも建築士として設計部門を統括。

ソースや素材名までを細かくメモ。ビールグラスやお猪口まで描いているのも特徴的。



Nakamura Fuminori
中村文紀さん

Sketch Expo!

遊びのようでも
すべてが建築に
つながる!?

岩田 自分の読める量よりはるかに多くの本を買ってしまっているの。本って自分としてはひとつの町のようなものだと思っていて、表紙と目次を見るだけでもその町の観光案内所へ行って、地図をもらって、たぐり回す意味はあって、町を散策するのはまた今度...ってよくないんですけど(笑)、そうやって本から触発される場所は多い。自分自身、ものを知らないってことがすごく恐怖でもあるので。

木村 岩田さんがお話しされることって、建築学生への講評を聞いていてもとても面白いんですけど、参照する対象が建築ばかりじゃないんですね。



田さんほどの愛着はなくて、つかず離れずあくまでも娯楽で。どちらかといえば僕の場合、ずっと趣味といえるのは音楽で、高校ではギターとサックスを、大学ではクラブカルチャーに衝撃を受けて、DJをやりに始めて。大学4年の頃はクラブのレギュラーも週1でやってました。卒制と並行しながら。

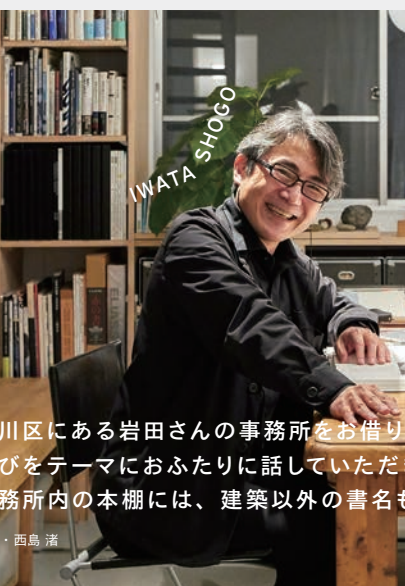
業務と切り離れた課外活動のような遊びかた

木村 そういったいろんなつながりが、最近、普段の仕事とはちょっと違う仕事というか、遊びの部分でやっている活動もあって、林業で栄えた京都の



岩田 建築を設計するとは、ひとつの世界を表現しているという気持ちがあるので、そこで建築が建築だけで語られてしまうのは片手落ちだと思っていて。いろんな関係のネットワークとして建築があるのに、リファレンスが世界じゃないのは貧しいし、逆にいえば、建築ってすべてのものに関係づいているから、哲学でもファッションでもアートでも映画でも、何をやっていても建築の勉強になる。...といういい商売なんですよ(笑)。

木村 僕も本は好きで、小学生の頃、一緒に暮らしていた叔母が結婚するにあたって、ひとつの本棚ごとくれたんですね。そこに筒井康隆、安部公房とかが並んでいて、片っ端から読みました。



淀川区にある岩田さんの事務所をお借りして、遊びをテーマにおふたりに話していただきました。事務所内の本棚には、建築以外の書名も数多く見られます。

撮影・西島 渚

ましたよね。

木村 そう。かつて好きだったテクノレベルを主宰していた方が日本に移住されていて、たまたま僕らが彼の家を設計するのになりました。もう大興奮でしたよ。何をそんなに喜んでるのかわからないってスタッフの反応もありましたけど(笑)。

北山の林業倉庫を友人たちと借りて、「北山ホールセンター」というサーキョウデザイナーの拠点をつくっています。ようやくだいぶ整備されましたけど、とにかく最初は廃材の山だったので大掃除から始めて。関わった時点では、面白そうって松本さん(※木村松本を共同主宰)の勧誘だけが頼りで、まったく経済活動ではなかったのですが。

岩田 先に計画があると多様に変化していくことが難しいし、遊びから始まるから広がりがあるんですよ。ところで、その活動を設計事務所としての仕事と離しているというのはどうしてですか。

岩田 自分の場所をつくること、がそのまま遊びになつてるといふ感じがいいですね。しかも、それが社会に還元されていくっていう。

木村 仕事の場合、どうしても木村松本という種の作家性に紐づいてしまうけど、そういう他者と集まって活動するときに僕らが提供できるものって、真つさらな知識でいち技術者になれるところがあって。完全に自分たちの作家性をはぎ取ることではできないかもしれないけど、もしかしたらこの先、もっとそういう瞬間がくるかもしれない...という何かありそうって予感ですね。

岩田 なるほど。

木村 あとは、スタッフの福利厚生というのか、スタッフのための遊び場とか、スタッフもありません。本場のオランダでサーキュラー・エコノミーの実践を見てきていたり、美山の茅葺き民家に住みながらうちで働いてたりってスタッフがいるので、北山ホールセンターに関わることは彼らの興味の延長線上にもつながるかなって。

木村吉成 写真右

1973年生まれ。

2003年木村松本建築設計事務所を設立

<https://kmmh.com/>

もう遊ばない!?
あえて宙ぶらりん
でこそ。

岩田 彫刻家のジャコメッティに、ゲームボードのような形をした《ノー・モア・プレイ》(もう遊ばない)という作品があります。作風の転換点となるような作品で、窪みのような痕跡があるだけで、ここで何をすればいいか、何をすればいいかわからない、人を途方に暮れさせるような何も無い空間なんですけど、遊びは終わりだった

岩田章吾 写真左

1964年生まれ。

2005年岩田章吾建築設計事務所設立

<http://www.iwatastogo.com/>



て宣言したこの作品こそ、私には意味があるような気がしています。それは、私が研究しているミース(・ファン・デル・ローエ)の建築の流動的空間からユニバーサルスペースへの転換にも通じる。欠如をかかえた世界像を想起させるところもあって、あらかじめ廃墟としてつくられた建築というのかな。

木村 おもしろいですね。

岩田 私の子ども頃の話になるけど、家が建つ前の造成された基壇がすごく好きで、いろんなイメージが喚起されるわけです。けど、家が建っちゃうとつまらなくなる。要は欠如を抱えることによって、むしろ豊かになるということがあって。人の精神が入ることその場がつかられるとするなら、精神が入っていない抜け殻の状態をあえて提示することで、むしろ多様に広がっていく可能性があるんですね。



木村 解決してしまわないほうがいいと。

岩田 そうそう。欠如や矛盾をはらんでる状態、自分はこういうものですと語らない、語れないような宙ぶらりんの状態にいるときがいちばん豊かじゃないですか。

木村 僕らのことといえば、仮に木村松本という設計事務所を畳んでしまつて、北山ホールセンターの活動に特化したとしても、遊びにならないし、それでは面白くない。

岩田 そうですね。プリコラージウツって素人仕事というか、

作っているうちに予想外のものができてしまつたという面があって、しかも、こんなものができた！ってそこで終わりにじゃなく、それをまた社会につなげる回路を持てれば、また新たな可能性が生まれそうですね。さっきのコンポストの話なんかもそういった可能性を感じました。



私は今年90歳になります。阪神・淡路大震災のときに必要に迫られて自転車に乗り始め、以来ロードバイクが趣味になりました。いまでも週に一度の練習と年に何回かはロングライドに出かけています。阪神・淡路、東日本大震災、熊本地震を経て続けている震災被害調査は、そろそろ資料をまとめる段階に入っています。前組織を独立してから51年間に籍した日本建築家協会には、今年の春に退会届を出しました。10代で建築家を志し、建築というものは永遠のものだとしていまままで活動してきましたが、どうやらそうでもないようです。中銀カプセルタワービルは築50年で、ソニービルは52年で取り壊されました。近年建てられているビルに使われている素材の耐久年数はどれくらいなのでしょう。これからの建築はますます耐久消費財になっていくのかもしれない。そうすると社会資本と文化の形成はどうなるのでしょうか。次世代への課題としてここに記しておきましょう。

稲地一晃

計画工房 INACHI代表
1933年大阪府生まれ。三田建築設計事務所、RIA建築総合研究所を経て1972年計画工房 DNAを設立、1993年計画工房 INACHIに改称。



建築家と建築家 03

ふたりの建築家の関係性を撮影します。今回は、神戸を拠点に活動する2人に、変わりゆく三ノ宮の駅前でお話を伺いました。

私は、昨年からJIA兵庫地域会の地域会長になりました。先輩建築家のなかでも稲地さんは別格で、議論の終盤にいつも鋭いコメントをされるのが印象的です。JIA創成期からの活動や、山口文象やヴォーリスなど歴史的建築家と交わりながら重ねてきた実績についてお話を伺えるのもとてもになります。私自身は、阪神・淡路大震災のころはまだ学生で、神戸に住むようになったのは2007年前後からです。震災で更新された神戸の建築も竣工後30年に近づき、最近ではリニューアルの相談が増えてきました。稲地さんは築50年で取り壊されることを消費財として指摘されますが、築30年であっても所有者交代や設備陳腐化で使用継続が困難な状況にある建築が多数あります。私たちが知恵を絞ることで、もっと長いサイクルで使うことができるかもしれません。街並みをつくってきた建築を、愛着をもって長く使うことが少しずつでも当たり前になっていくといいですね。稲地さんたちの世代から震災復興を伝えてもらうことで、神戸の街並みを託していただいているように思います。それにちゃんと応えていきたいですね。

菅原英房

村井敬合同設計 取締役設計監理部長
1975年生まれ。明治大学大学院修士課程修了後、2001年より村井敬合同設計。2022年よりJIA近畿支部兵庫地域会地域会長。



水鯨
大阪市西区川口1-4-19
⑨時〜18時30分（ラストオーダー） 月火曜休
@kissai_sujiri

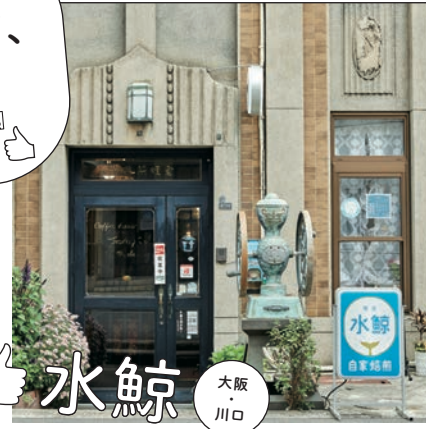


金山大
SWING
<https://swing-k.net/>



あの人の オススメ

建築家の
行きつけ店、
教えます
Recommend
Shop



水鯨 大阪・川口



水鯨ブレンド480円他、自家焙煎珈琲の種類も豊富。クリームソーダやプリンアラモードなど味の継承も行っている。



👍 ワタシノ

京都
二条



後藤直子
プレイスラボ1級建築士事務所
<https://place-lab.com>



路地奥の町家を活用。「カフェ日タビビ」では旬の素材を活かした定食を1,500円で提供。撮影日はたけのこづくしだった。

（彼女の感覚、信用できるので。）

（めっちゃいい店見つけた!って。）

「待ち合わせ先にも純喫茶がないかを調べてから向かいます」という金山さん。事務所そばで行きつけにしていた喫茶店に休業の貼り紙で、偶然たどり着いたのが喫茶店の聖地のようなこちら、「水鯨」だった。

昭和3年築とされるモダンアパート物件に、金沢で43年営業を続けた名物喫茶「禁煙室」の扉やステンドグラス、椅子、テーブルなど内装一式を移築。聞けば、他にも神戸や貝塚の喫茶店から譲り受けた調度品やレジンなども活用しているのだとか。「くつろぐためのちよっとした工夫、気軽に誰もが足を運べる敷居の低さ：僕からすれば喫茶店はお寺や神社にも似た、日本の文化財だなんて」と店主の山口修平さん。いまや水鯨は行列店となっているが、それでも喫茶文化継承活動のために週2日の休みを維持。閉店を考える喫茶店のためにできることがないか、東奔西走の日々だそう。「街の記憶つてすぐに失われてしまうから。山口さんの活動は記憶を残すだけじゃなくて、さらに新たな価値を見出す面もあってすごい」と金山さん。今回の取材中、本文の冒頭で休業の貼り紙が…と紹介した喫茶店のスタッフが水鯨でバイト中だとも判明。喫茶店の縁は働く人までもつないでいくのだ。

「渡り鳥アザレア食堂」として、ケータリング営業を続けてきた珍坂綾さんが、コロナ禍直後の20年4月に開いた場所が「ワタシノ」。「さすがにチャレンジャーだなと思って」とほほえむ後藤さん、綾さんは大学時代の同級生で（学部は建築科と立体造形科、折々にケータリングをお願いしてきたのだそう。「おいしくて間違いないし、集まるメンバーに合わせて注文を聞いてくれるのもよくて」「お題もらって作るほうが好きだからね」「夏休みに田舎に帰ってきたみたいな感じってお題で料理してくれたこともあった」と2人、顔を合わせれば話が止まらない。綾さんとしては「ワタシノ」はケータリングのための拠点でキッチンとして使ってもらったが、最近では「カフェ日タビビ」「喫茶ニューふるさと」と2つの店名を使い分けながら店を開き、他にも友人たちが展示や販売をする、みんなのスペースに。「もともと店を開けて待つとか、同じ場所に通うとかがストレスで（笑）。週1〜2だったらがんばれるかな」と綾さん。ワタシノにビビビ…といくつもの名義が出てきたけど、その芯にあるのは綾さんの料理。そして、「料理ものづくりと一緒にだね」というのは2人ともに共通した見解だ。

ワタシノ
京都市中京区西の京勤学院町1-14
⑩主に火・金・土曜に「カフェ日タビビ」として営業
@watashino333



(写真:左)部屋の扉から奥へと続くアーチ。その下の本棚によって執務室、会議室、ライブラリーと部屋の機能を分けている。中央2人が伊賀さん、周戸さん。(右上)90本の部材からなるルーバーとしてアーチを構成。アーチ1本につき、ショップボットで切り出した4つのパーツをつなぎ合わせている。(右下)天板を支える円錐部材。ショップボットで切り出した13枚の円形を貼り重ねている。撮影・萬野光雄、周戸南々香

近代建築が数多く残る大阪・淀屋橋界隈でも、ひと際、風格のある綿業会館。昭和6年築のこの建物の4階に、JIA近畿支部は事務局を構えています。長年使われてきたこの場所の改修を、学生委員会の学生たちがプラン、設計、施工までを担当しました。

改修案を出したのは1期メンバーの鹿山勇太さん、2期メンバーの周戸南々香さん、伊賀正準さん。その中から公開コンペ(※22年2月、オンライン開催となったJIA近畿支部プレ大会にて実施)で伊賀さんのプランが選ばれました。「歴史的建造物でもあるので、既存のものにどうアプローチするかから検討を始めました。事務局のある部屋には3つのアーチ状の開口がついていて、その特徴的なアーチを部屋の奥まで浸透させるように考えたプランです」(伊賀)。

2期の学生メンバー3人を中心に、実測、基本設計と進める中で、天井や床を触れない重要文化財ならではの環境、すでに設置されたエアコンや照明器具との兼ね合いなどから、何度もスタディを重ねることに。結果的にアーチはルーバーでつくり、その下部は本棚とする設計にまとまった。23年3月から始まった施工では、京都大学建築学科に導入されているデジタル木材加工機「ショップボット」をフル活用。「まだ実作例も少ない機械ですが、せっかく私たちがやるなら実験的なこともしたかったので、ショップボットでしかできない造形に挑みました」(周戸)。

平日は大学で部材を切り出し、それを大阪に運んで、週末に組み立て、取り付け…の繰り返し。学生委員会の3人に加えて、のべ20人ほどの学生が様々な作業を分担して進めた。「最初は機械が頑張ってくれるものだと思ってたら、結局は人間が頑張らないといけなくて(笑)」(伊賀)、「ただ、結果的には大学の先生にも興味を持ってもらえるものにはなったと思います」(周戸)。

「毎週末の施工にはJIAの役員がシフトを組んで、交互に立ち会いました。そこで学生たちと話しながらアドバイスしたり、必要な職人さんを紹介したりと、適材適所でJIAのネットワークも活用できました」と委員長の前田茂樹さん。学生たちの手でJIA近畿支部はまったく新しい空間となりました。

綿業会館にあるJIA近畿支部事務局を学生委員会で改修しました。

学生委員会とは

「JIA近畿支部学生卒業設計コンクール」入選学生を中心に2021年度から活動。委員長は建築家の前田茂樹。22年度に活動した2期メンバーは伊賀正準(大阪公立大学大学院)、周戸南々香(京都大学大学院)、上田雄貴(大阪工業大学大学院)。



JIA (The Japan Institute of Architects) とは

JIA=日本建築家協会は、建築家が集う公益社団法人です。建築、まちづくりを通して社会公共に貢献する活動をしています。その近畿支部では滋賀、京都、兵庫、大阪、奈良、和歌山の各地域会と、さまざまな委員会、研究会、部会が活動をしています。

<http://www.jia.or.jp/kinki/>

JIA近畿が行っている建築イベントやコンペ、おすすめ情報などはホームページで更新しています。

コロナでの順延を経て、JIA近畿支部大会、ついに京都で開催。

会員同士の交流だけでなく、JIAから社会に向けた発信の場としても機能している支部大会。18年に滋賀・近江八幡で開催された後、20年に京都で予定されていた支部大会は順延となっていたが、ようやく23年度の今年、開催が決定した。会場は歴史ある木造建築の上七軒歌舞練場。テーマはNew Normal, New Architecture)として、すっかり私たちが取り巻く環境が変わってしまったアフターコロナの時代において、これからのに向けたアイデアを生み出す機会となることが目指されている。

プログラムは、「TOTOギャラリー・間」代表でキュレーターの篠久美子さんによる講演をはじめ、パネルディスカッション、関西建築家新人賞を受賞した建築家によるプレゼンテーションなど。日時は9月9日。なお、大会にあわせて9月7日～10日には、JIA京都地域会の建築家展(作品展)が京都文化博物館別館ホールにて開催される。

もどかしい状況ながら国際交流委員会活動中。

国際交流委員会では、各国の建築家団体等と連携して、国際コンペや講演会、ワークショップを毎年開催しています。とくに「近所付き合い」といえる日中韓の3カ国の交流については、KIA釜山建築家会、天津市建築学会と、1週間程度の滞在となる若手建築家によるワークショップを計画し、毎年会場国を持ち回りで開催しています。日本からは、組織設計事務所の若手所員の方を中心に、積極的な参加をいただいています。また、KIA釜山建築家会と天津市建築学会とが9月に共催している国際アイデアコンペ「釜山国際建築大展」についても、本委員会では本代表の審査員を毎年選出し、最終審査に参加しています。昨年度は山本麻子氏(アルファヴィル)に審査していただきました。

23年度からは積極的な交流活動が再開する予定ですが、オンライン環境下で得た手軽な国際交流も継続させることで、世界の建築文化をより身近なものに感じていただける機会づくりに尽力したいと思っております。

文・朽木順綱(国際交流委員会委員)

荒木公樹 JIA近畿支部 大阪地域会長 (2022年度)

大阪



戎橋公衆トイレコンペ敷地周辺

大阪市は、道頓堀・戎橋の南詰西側に位置する公衆トイレの建て替えに当たり、これからの公共トイレのあり方を示唆する優れた提案を期待し、公募型コンペを実施しました。われわれJIAは、「JIAサポート」を通じて設計者選定支援の実績を持つことから、募集要項の作成、広報、選定委員会の開催等に際し、発注者である大阪市への支援に取り組みました。支援業務では、岩田恵(総括担当)・坂井信行(まちづくり担当)・松田修平(建築担当)の三氏を近畿支部長と大阪地域会長がサポートする体制で臨みました。全国各地から163作品が提出され、公開プレゼン・ヒアリングを含む2段階審査の結果、最優秀案及び次点案が選定されました。公衆トイレは24年度内に完成の予定です。

大阪地域会では坂井信行さん(地域計画建築研究所)が新地域会長に就任しましたが、今後とも地域会活動へのご理解・ご協力をお願いいたします。

OSAKA

歴史的建築物セミナーの様子



本年度より新たなワークショップ「ミニポートタワーをつくらう」を開催しています。神戸のシンボルであるポートタワーの形の秘密を学ぶプログラムです。手順を理解し丁

兵庫

菅原英房 JIA近畿支部 兵庫地域会長

HYOGO

本年度から対面式の事業を活性化させました。各実行委員会は議論を重ね、イベント参加者と共に建築文化への理解を深めました。「すまいまちづくり育成塾」が開催される建築出前授業「T-CUBE」によるボクたちとワタシたちの村」は、単位空間が繋がって街を形成するプロセスを疑似体験し、公共心を養うワークショップです。本年度は、高砂市立図書館と洲本第二小学校で開催しました。参加した子どもたちは、それぞれの得意を活かして創り上げた街に感動しました。「地域まちづくり委員会」では、本年度より新たなワークショップ「ミニポートタワーをつくらう」を開催しています。神戸のシンボルであるポートタワーの形の秘密を学ぶプログラムです。手順を理解し丁

ロシアのウクライナ侵攻に始まり、コロナと戦争という先行き感の危うさや、それでも経済や自分たちの生活は、粛々と動いている、うんともやるともやらないという状況が、戦争によるエネルギーの価格高騰、世界的な食糧不足など世界とアジアの事情が時間差となって、欧米諸国に比べればまだましといえ、徐々に日本にも到達しているのを感じる1年でした。

事(の)環境やJIAらしさとは何かをみなさんと一緒に考えながら、京都の建築業界の景色が、少しずつ変わるような活動ができたらと考えています。そういった意味で、まず今年の総会は、2年振りということもあり、いつもと違う会場ということで、京セラ美術館で行いました。JIAの佐藤尚巴会長に、「頼りになる建築家、頼りになるJIA」と題して講演いただいたき、多くの会員が集う会となりました。9月には近畿支部大会京都と同じ時期に合わせて、久しぶりに京都文化博物館で京都地域会の作品展を開催する予定です。京都地域会のみならず、一緒に、いつもとちがう景色をつくる1年にしたいと思

KYOTO



京セラ美術館での総会集合写真

和歌山

谷岡拓 JIA近畿支部 和歌山地域会長



まちづくり意見交換会@東鏡冶屋町窓庫

昨年(2022年)、JIA和歌山において長い間大変ご尽力いただいたお二人が相次いでご逝去されました。古久保泰勇さんと長尾正剛さんです。建築設計の実務においても挑戦的、シャープな都会的ディテールがかつこよく、JIAでお会いする前から存じ上げる和歌山の建築家でした。お二人が災害対策活動や市民との協働などの公益活動にも熱心なことは、私がJIA入会後に知ったことでした。重鎮と呼ばれるご年齢になっても発表会や勉強会に出席される

岡田良子 JIA近畿支部 京都地域会長

京都

WAKAYAMA

奈良地域会の22年度の活動は12月、恒例の講演会として奈良県御所市を拠点に活躍している建築家・吉村理さんの案内で、御所町の一角にある「旧花内屋」を住宅に、敷地内の「辰巳蔵」を事務所にしたリノベーションされた作品をはじめ、御所市内でこれまで携わってこられた様々なプロジェクトを見ながら街歩きを行った後、「御所町プロジェクト」についての講演会を開催しました（その様子は You Tube 奈良地域会チャンネルで公開していますので是非ご覧ください）。また、厚生労働省により「マスク着用は個人判断」となった3月には徳島地域会の皆さんのご協力を得て、徳島の最新木造建築事例の見学と木の利用促進活動を主な目的とした研修旅行を決行、東京の建築家の作品のほか徳島地域会会員の作品見学及び情報交換と交流会を行い、今度は我々が奈良を案内する約束をして旅を締めくくりました。徳島地域会の皆さんの作品はど



徳島地域会交流会

れも力作でとても良い刺激となりました。12月の講演会もそうでしたが設計者自らの解説付きでの内覧はコンセプトから構造、工法、材料の選択まで、より理解が深まり会員の自己研鑽の良機会となるのでこれからも毎年恒例として全国の地域会との交流を深めていこうと思っています。一方で地域会正会員の減少と高齢化（私も含めw）も否めないで、新たな会員の増強も我々の課題です。まずは魅力的な地域会とすることを目標として2期目後半戦を務めていきたいと思っています。

NARA

滋賀

SHIGA

「歴史を活かしたまちづくり」というテーマで地元行政（大津市）とタイアップしている「景観まちづくりフォーラム（市民公開）」は、継続開催12回を数えました。今回は「芭蕉を愛した近江の風光」と題して、港町として栄えた浜大津地区の東海道・義仲寺界限を散策しました。建築家として「滋賀県らしさ」とは何かと考えたときに、市場規模や需要を鑑みると、環境や地域の持続性をテーマにした取り組みも必要なのではないかと感じています。琵琶湖水源の森林で育つ「びわ湖材」と呼ばれる滋賀産材を活用することで、地域や建築の可能性を育てることも課題としており、学びと仲間づくりを重視しながら実務のクオリ



建築と歴史がまちとびわ湖と山、そして人をつないでいきます

わたしのtable



vol.03 平岡孝啓さん(平岡建築デザイン)の事務所テーブル

事務所南側の公園風景に対して、向き合う角度を変えて楽しむことができるS字型の大テーブルを製作しました。フリーアドレスで、前日と違う場所に座ることがルールです。その後、可動式のI型テーブルを追加して、現状のT型が基本セッティングとなりました。パソコンに向き合う毎日、ふと顔を上げた時に癒される瞬間を思い描いた計画ですが、ゆとりなく仕事に没頭すると、この恵まれた環境を忘れがちです。コーヒーブレイクという言葉が示すように、積極的に気分転換する意識が大切なんだと学びました。

table

table 3号

2023年6月15日発行

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

大阪市中央区備後町2-5-8 綿業会館4階

企画・制作 JIA近畿支部 広報委員会 紙媒体ワーキンググループ

金山大(SWING)WG長

梅原悟(UME architects)

遠山健介(遠山健介建築設計事務所)

西井洋介(ROOTE)

萬野光雄(萬野光雄建築設計事務所)

編集・取材 竹内 厚

デザイン タナカタツヤ

表紙ビジュアル 上田佳奈

table vol.3

建築家と建築から
街を活気づけるマガジン

